
こちら聖大徳寺学園！

ライトニングフレイム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ちから聖大徳寺学園！」

【Zマーク】

Z6507A

【作者名】

ライトニングフレイム

【あらすじ】

たくさんのアニメ・ゲームキャラが学園ドラマを繰り広げる夢小説。新米教師の奮闘記、甘い恋物語、究極の青春群像劇などなど・・・。夢が膨らむお話です。

プロローグ・3年E組生徒名簿

この物語は、たくさんの中から、私が選び抜いたメンバーで学園ドラマが繰り広げられるものです。

あくまでもドリーム小説なので、その辺は気にしないで下さい。

この物語に登場するアニメキャラ達・3年E組生徒名簿（名前の前に付いている番号は出席番号です）

男子

- 1 ネギ（「魔法先生ネギま～」より）
- 2 シンジ（「新世紀エヴァンゲリオン」より）
- 3 アスラン（「機動戦士ガンダムSEED」より）
- 4 一護（「ブリーチ」より）
- 5 シン（「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」より）
- 6 コーノ（「魔法少女リリカルなのは」より）
- 7 小狼（「ツバサクロニクル」より）
- 8 霧彦（「カスミン」より）
- 9 蓮（「NANA・ナナ・」より）
- 10 サトシ（「ポケットモンスターAG」

- 1 1 キラ（「機動戦士ガンダムSEED」
より）
- 1 2 クー（「HレメンタルジHレイド」
より）
- 1 3 冬樹（「ケロロ軍曹」
より）
- 1 4 サスケ（「NARUTO -ナルト-」
より）
- 1 5 ルージ（「ゾイドジエネシス」
より）
- 1 6 R D（「ゾイドフューザーズ」
より）
- 1 7 カケル（「サルゲッチュ・オンエアー」
より）
- 1 8 ルドルフ（「ゾイド」
より）
- 1 9 イザーク（「機動戦士ガンダムSEED」
より）
- 2 0 ソーマ（「甲虫王者ムシキング -森の民の伝説-」
より）
- 2 1 フェイド（「魔法少女リリカルなのは」
より）
- 2 2 ステラ（「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」
より）
- 2 3 サクラ（「ツバサクロニクル」
より）
- 女子

- 24 ハルヒ（「涼宮ハルヒの憂鬱」
より）
- 25 ちよ（「あずまんが大王」
より）
- 26 レイ（「新世紀エヴァンゲリオン」
より）
- 27 ルナマリア（「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」
より）
- 28 奈々（「NANA -ナナ-」
より）
- 29 アスカ（「新世紀エヴァンゲリオン」
より）
- 30 咲（「ふたりはプリキュアスプラッシュスター」
より）
- 31 なのは（「魔法少女リリカルなのは」
より）
- 32 ちせ（「最終兵器彼女」
より）
- 33 舞（「ふたりはプリキュアスプラッシュスター」
より）
- 34 知世（「カードキャプターさくら」
より）
- 35 メイル（「ロックマンエグゼ」
より）
- 36 レ・ミィ（「ゾイドジェネシス」
より）
- 37 光（「魔法騎士レイアース」
より）
- 38 ルキア（「ブリーチ」
より）

39 侑子（「ホリック」
よ（じく）

40 はやて（「魔法少女リリカルなのは A's」
（じみ）

あ、どんな学園ドラマが繰り広げられるのでしょうか？
早速見てみましょー！

第1話「希望に満ちた春」（前書き）

いよいよ本編が始まります！

主人公は聖大徳寺学園高等部3年E組担任として配属された新米教師・小田小夜。

今回は、小夜が教師として初めて臨む学校行事「就任式」の様子を描きます。

それでは、どうぞ！

第1話「希望に満ちた春」

桜吹雪が舞う、ある春の日。ここ、海里堂町でもあいかわらひで新生活が始まつていく。

入学、進級、就職・・・。それぞれの人々がそれぞれの新しいスタートを切る中、ここにも新たなステージに立とうとしている若い女性がいる。

小田小夜（BLOOD+よの）である。

小夜

「うわ〜、遅刻だ、もう完璧に遅刻だあつ！今日はすつゞく大事な日なのに。昨日の夜、用覚ましセットし忘れて寝坊しちゃつた！もう、私のバカつ！」

小夜はこう叫びながらある場所へダッシュしていった。そのある場所とは・・・。学校だった。

そう、小夜は今日から新米教師として新たなスタートを切るのだ。

小夜は腕時計を気にしながら走っていた。

小夜

「なんとか間に合つかも・・・」

しかし・・・。

キキーッ！

小夜

「キャアッ！」

あまりにも急いでいたので、車に引かれてしまいそうになつた。
おかげでかなりのタイムロスになつてしまつた。

小夜がやつと学校に辿り着いたのは、午前9時過ぎだった。

玄関を潜り、職員室を手指す小夜。すると・・・。

ドシンー

何かにぶつかつたらじい。

小夜

「「」、「」めんなさい・・・」

「あれ？あなたは確か・・・3年E組の担任になる、小田小夜先生
ですよね？」

小夜

「はい、そうですが・・・」

「惚けている暇はありません！もう就任式始まつてますよー。」

小夜

「えつー？（うわ～、マジでー？）」

「ああ、行きまじゅうー。」

さつきぶつかつた男性に手を引かれ、小夜は就任式が開かれている大講堂へ向かった。

大講堂には大勢の生徒が集まっていた。小夜はこれから自分が面倒を見る3年E組の生徒の面々を眺めながら思つた。

小夜

「（この子達が、私が面倒を見る最初の生徒・・・。しかも高3だから将来に対して不安を抱く子も多いだろう。しっかり卒業まで導いてあげられるかな・・・？）」

不安でいっぱいになる小夜。すると・・・

「新任の先生方が入場します。皆様、拍手でお迎え下さい！」

大講堂からアナウンスが響き、それにつられるように他の新任教師達が、校長らしき人の後に付いて大講堂に入つていく。

小夜は最後尾だった。しかし、少し不安なせいか、足がすくんで歩けなかつた。

「さあ、行くんですよ」

肩を叩いてくれたのは、さつきぶつかつた男性だった。

小夜

「・・・はい！」

男性に勇気をもつた小夜は、大講堂に入つていった。

就任式は滞りなく進行し、いよいよ小夜が紹介される番になつた。

「小田小夜先生！」

小夜
「はいっ！」

「3年E組の担任として、頑張つてもらいます。小田先生は、この春からの新規採用です。よろしくお願ひします」

大講堂のあちらこちらから拍手が飛び交つた。皆、小夜の事を歓迎してくれているのだろう。

続いて、小夜のスピーチとなつた。

小夜

「皆さん、おはようございます・・・。この春から新規採用で来ました、小田小夜と申します。去年、教員免許を取つたばかりで、わからない事ばかりですが、皆さんと一緒に頑張つていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします！」

小夜が話し終わった途端、大講堂中から暖かい拍手が飛び交つた。

短いスピーチだったものの、小夜の熱意は十分、生徒達や先輩教師達に伝わつた。

小夜

「いよいよ、私の教師としての生活が始まるんだ・・・。私、頑張らなきや！」

第2話「11対面」（前書き）

無事、就任式を終えた主人公・小夜。

今日はいよいよ、3・Eの生徒達に「11対面！」

そして、小夜をサポートしてくれた男性の正体は！？

それでは、どうぞ！

第2話「1J対面」

ハラハラドキドキの就任式は、特に大きなトラブルもなく終了した。やっと職員室に戻つて来た小夜は、自分の机に座るとグテ~と倒れ込んだ。

小夜

「スタート早々から大遅刻。頑張るつと決意したもの、こなんんで大丈夫かなあ、私・・・」

とその時、誰かの手が小夜の肩に触れた。

小夜

「あ、あなたは・・・」

肩を叩いてくれたのは、さつき小夜に勇気をくれた、青い髪に眼鏡を掛けたまあまあイケメンな男性教師だつた。

小夜

「先程は、いろいろありがとうございました!」

「いいんですよ。最初はみんなこんな感じで、教師界に入つて来るものですから」

小夜

「はい・・・あ、ところで、名前、まだ聞いてませんでしたね」

「ああ、そうでした。私、今年度の3年E組の副担任を任せられた東

野「ジロウ（「ポケットモンスターAG」より）と申します。小田先生とはコンビを組む事になりますね。よろしくお願ひします」

小夜

「よろしくお願ひします・・・（東野先生かぁ・・・感じのいい方だなあ）」「

3・E副担任の東野ジロウは教師歴3年。新規採用以来、聖大徳寺学園で教師として下積みをしてきた。

コジロウ

「教室で生徒が待つてます。さあ、行きましょう」

小夜

「はい！」

小夜とコジロウは並んで、教室に向かった。

3・E教室。

教室では、個性豊かな生徒達がワイワイガヤガヤ騒いでいた。

「今度の担任、新人らしいぜ！」

「えつ！？新人じゃあちょっと頼り無いかも・・・

「しかも副担は『役立たずのコジロウ』だつて！」

「えへ、最悪〜〜！」

「でもその一言酷過ぎるわよ」

「あ、先生來た」

「みんな、席に着けよ〜」

「シン・・・シン・・・

小夜とゴジロウの足音に反応するかのよつて、生徒達は一斉に席に着いた。

ガラッ！

教室のドアが開く。小夜とゴジロウが教室に入つて來た。

ゴジロウ

「皆さん、進級おめでとう〜！」

ゴジロウがお祝いの言葉を言つたにも関わらず、生徒達はしらけた顔をしてくる。

ゴジロウが挨拶したから悪いのでは？？？ そう考えた小夜は、今度は生徒達に挨拶してみた。

小夜

「み、皆さん、おはよ〜〜！ やれこめす〜〜。そして、進級おめでとう〜〜こます〜〜。」

「おお～っーー。」

「ジロウが喋るとみんな黙り込んでしまうのに、小夜が喋ると歓声が上がる。どうやら小夜は、生徒達に人気のようだ。」

小夜

「今日から担任として皆さんの面倒を見る事になりました、小田小夜とします。大学を卒業したのは2年前・・・。まだ皆さんは歳はあまり離れていませんが、私も皆さんと一緒にたくさん仕事を勉強してこきたいと思こますので、よろしくお願ひしますー。」

やはつーじーでも、拍手喝采。

「いよー！小田小夜！」

「なんか可愛いーーー！」

「よろしくね、小夜先生！」

生徒達が次々と歓迎の言葉を掛けた。

小夜

「早く皆さんと仲良くなりたいから、私の事を『小夜』と呼び捨てで呼ばれてみたいな・・・。ダメかな？」

「わかったのに決まってるだろーなあ、みんなー。」

「おーーー。」

小夜

「みんな・・・。ありがとう・・・。」

小夜は嬉しくて、少し涙ぐんだ。

しかし、その感動ムード全開の教室の片隅で、忘れ去られている教師歴3年の男性教師が、約一人・・・。

コジロウ

「あの〜、僕の事、忘れてない? (泣) 」

小夜

「それでは、みんなの顔と名前を覚えたいので、早速出席を取ります・・・」

第3話「3・E生徒リアル名簿・男子篇」（前書き）

なんとか3・Eの生徒達と打ち解け合つ事が出来た小夜先生。

今回は、小夜先生が3・E男子生徒を出席を取りながら紹介します。

それでは、どうぞ！

第3話「3・E生徒リアル名簿・男子篇」

小夜は生徒名簿を取り出すと、出席番号順に一人ずつ、生徒達の名前を読み上げた。

小夜

「まざ・・・・。東堂ネギ君！」

最初に読み上げたのは、眼鏡を掛けた少し襟足の長い、東堂ネギ（

より) だった。

「はい」

小夜

（結構おとなしそうな子ね・・・）次は・・・。矢島シンジ君！」

2番目に呼ばれたのは、小夜の話を真剣に聞き入っている矢島シンジ（「新世纪エヴァンゲリオン」より）だった。

シンジ

はい

小夜

「（）の子はしつかりしているな……）えつと、アスラン・海道君。」

次に呼ばれたのは、ロボットアニメが好きらしく、いつも机に「*プラモデル*」を飾っているアスラン・海道（「機動戦士ガンダムSEED」より）。

アスラン

「はい・・・」

小夜

「（ロボットが好きなのね・・・。これぞ）タクだわ・・・」今泉一護君ー。」

4番目に呼ばれたのは、どこか不良っぽい碎けた制服の着方をしている今泉一護（「ブリーチ」より）。

一護

「えつ・・・・。ああ」

小夜

「（ちょっと感じ悪いかも・・・）高富シン君ー。」

5番手はすつと窓の外を眺めていた高富シン（「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」より）。

シン

「あ、はいーやばいなあ、またやつちまつた・・・（笑）」

小夜

「（この子、ちょっと可愛いかも）ユーノ・若林君ー。」

6人目は少し暗めの性格のユーノ・若林（「魔法少女リリカルなのは」より）。

ユーノ

「・・・

小夜

「（今日は調子が悪いのかな・・・？）朴小狼君！」パク・シャオラン

7人目は読書が好きらしく、今までさえ文庫本に夢中の朴小狼（「ツバサクロニクル」）。

小狼

「えっ、はい！すみません。読書に夢中になつてたもんで・・・」

小夜

「（この子もなかなか可愛い・・・）田川霧彦君」

8人目は就任式が終わつてから、ずっと居眠りしていた田川霧彦（「カスミン」）。

霧彦

「・・・（おやすみ中）」

小夜

「（もう、霧彦君ー！仕方ない、放つておこう・・・）次は・・・

木村蓮君」

9番手はキッチリと席に着いている木村蓮（「NANA・ナナ・」
よじ）。

蓮

「・・・はい」

小夜

「（この子はしっかりしているわね・・・よしよし）次！新藤サト
シ君」

10番目に呼ばれたのは先程

「今度の担任は新人らしいぜ！」

と話していた新藤サトシ（「ポケットモンスターAG」
よじ）。

サトシ

「はーい！頑張れよ、新人！」

小夜

「（友達扱いしてもいいけど、最初でこんな言い方はないでしょ・
・）キラ・板倉君」

11人目は出席を取つていてる間もしっかり予習をしているキラ・板
倉（「機動戦士ガンダムSEED」
よじ）だ。

キラ

「・・・はい。すみません、ちょっと勉強してたんですね・・・」

小夜

「（勉強熱心なのはいい事よ） クー・三澤君ー」

12番目は先程のキラとは正反対、今でさえ大騒ぎのクー・三澤（「エレメンタル・ジェレイド」） より）。

クー

「はいはーい・よろしくな、新人さんー」

小夜

「（）の子もちょっと問題児かも・・・）じゃあ、阿久津冬樹君」

13番目に点呼されたのは不安そうな顔をしている、阿久津冬樹（「ケロロ軍曹」 より）。

冬樹

「・・・はい・・・」

小夜

「（元気がないわね・・・どうしたのかな？） それでは、大口サスケ君」

14番目は小夜を睨むように見つめる大口サスケ（「NARUTO -ナルト-」 より）である。

サスケ

「何だよ、気安く声掛けるなよ・・・」

小夜

「（不良かしら・・・ちょっと先行きが心配）ルージ・柴田君！」

「ゾイドジエネシス」「（よ）」

15人目はずつと頬ずえをしながら話を聞いているルージ・柴田君

ルージ
「はい・・・」

小夜

「（この子もちょっと元気がないわね・・・）R・D・ワイズマン君」

16人目はクラス中の女子の視線をたくさん集めているR・D・ワイズマン（「ゾイドフューザーズ」）である。

R・D・

「はー。いやあ、今日もモテまくりで困っちゃうよ」

小夜

「（モテていいのか悪いのか・・・）次！沢井カケル君」

17番目に点呼されたのは、笑顔が眩しい元気ハツラツな沢井カケル（「サルゲツチュ・オンエアー・」）。

カケル

「はい！よろしくお願ひします！」

小夜

「（この子はしつかりしているな・・・）次は・・・伊東・ルドルフ・コストナー君」

18人目は話によればアメリカ人と日本人のハーフと書つ伊東・ルドルフ・コストナー（「ゾイド」より）。

ルドルフ

「はい」

小夜

「（髪が長い男の子は個人的に好きだな・・・）イザーク・飛田君！」

19番手は、キリッとした横顔に銀髪が映えるイザーク・飛田（「機動戦士ガンダムSEED」より）。

イザーク

「はい。俺、今年こそ学級委員長になつて、みんなを引っ張ります！」

小夜

「（自分の意見が言えるのは、素晴らしい事よ）男子は次で最後ね・・・ソーマ・谷口君！」

最後に呼ばれたのは、今でやえウォークマンで音楽聴あきらめづのるのソーマ・谷口（「甲虫王者ムシキンギ - 森の民の伝説 - よつ）だ。

ソーマ

「・・・（音楽に夢中）」

小夜

「（うららかソーマ君、ホームルーム中に音楽聴あきらめづのくのは止めよつね。・・（笑））男子はこれで以上ですね。では、女子に入ります。」

第4話「3・E生徒リアル名簿・女子篇」（前書き）

今回は3・E女子生徒を、小夜先生が出席を取りながら紹介します。

それでは、どうぞ！

第4話「3・E生徒リアル名簿・女子篇」

3・E男子生徒の出席を取り終えた小夜。

続けて、女子生徒の出席確認を始めた。

小夜

「では、女子行きますね。フェイト・フリドハウスさん」

女子の1人目は、金髪でまじめそうなフェイト・フリドハウス（「魔法少女リリカルなのは」より）。

フェイト

「あ・・・、はい」

小夜

「（至つて普通か・・・）上島ステラさん」

2番手は、先程のルドルフと同じく、アメリカ人と日本人のハーフ・上島ステラ（「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」より）。

ステラ

「はい・・・」

小夜

「（おとなしそうな子ね・・・）次！中島サクラさん！」

3番目に呼ばれたのは、何か悩みを抱えているらしく、他の生徒に比べて暗い性格の中島サクラ（「ツバサクロニクル」より）。

サクラ

「・・・はい・・・」

小夜

「（今にも泣き出しそう・・・気に掛かるわ・・・）次は・・・垣花ハルヒさん」

4番目は先程、サトシと共に騒いでいた、人呼んで
「女系番長」
の垣花ハルヒ（「涼宮ハルヒの憂鬱」
より）。

ハルヒ

「はーい！ よろしくね、新人さん」

小夜

「（げ、元気いっぱいね・・・）光月ちよさん」

5番手は、このクラスで一番のおちびさん・光月ちよ（「あずまん
が大王」
より）だ。

ちよ

「はーい！」

小夜

「（元気ハツラツでよろしい！）次は・・・、大徳寺レイさん・・・。
ん？」

6人目は、クラスで一番男子に人気があるオットリ美女・大徳寺レイ（「新世紀エヴァンゲリオン」より）。

レイ

「（あ、驚いてる・・・）あの、実は私、理事長の娘なんです・・・」

「

小夜

「（えつ！？理事長先生の娘さん！？）りやあ、驚いたなあ）ルナ・マリア・ホステリカさん！」

7人目は、フランス出身、外国語が得意と聞いたルナマリア・ホステリカ（「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」より）。

ルナマリア

「ボンジュー・ル・ビ・う・よ・ろ・じ・く・！」

小夜

「（外国语が得意なのね。感心感心）次！町田奈々さん」

8人目はぐるぐるパー・マがいい味を出している町田奈々（「NAN A - ナナ -」より）。

奈々

「はいっ！」

小夜

「（しつかりしているわね）大原アスカさん！」

9番手の大原アスカ（「新世紀エヴァンゲリオン」より）は、日本人ながら金髪のツインテールが特徴。

アスカ

「はい！よろしくお願ひします！」

小夜

「（調子乗り過ぎよー・・・）加藤咲さん！」

10番目は、人一倍正義漢が強い加藤咲（「ふたりはプリキュアスマッシュシユスター」より）。

咲

「はーーー困った時は何でも言って！私が力になつたげる！」

小夜

「（頼りになる子ね！）次は・・・牧野なのはさん」

11人目は少し子供っぽい顔つきが人気を集めている、牧野なのは（「魔法少女リリカルなのは」より）。

なのは

「はーー！」

小夜

「（元気ハツラツね！）光月ちせさん・・・で、あれ？」

1-2番田の光月ちせ（「最終兵器彼女」より）はなんと、先程のちよと名前が同じなのだ！と、言ひ事は・・・。

ちせ

「はい。実は私、ちよとは双子なんです」

小夜

「えつ！？双子・・・？」

ちせ

「はい。私が姉で、ちよが妹なんです」

小夜

「（なるほどね・・・）次！天堂舞さん！」

1-3番田の天堂舞（「ふたりはプリキュアスプラッシュスター」より）は、2年生の時に成績優秀生徒として表彰された優等生。

舞

「はい」

小夜

「（たすが優等生。オットリしてるわ）石原知世さん

1-4番田は、海里堂町では一番の大富豪の娘・石原知世（「カードキヤブター」をくら

よつ)。

知世

「はい。よろしくお願ひしますね」

小夜

「（富豪の娘つていい感じ）次！原メイルさん」

15人目は、ピンクの髪の毛にハートの髪飾りが映える原メイル（「ロックマンエグゼ」）。

メイル
「はい」

小夜

「（この子も至つて普通か・・・）レ・ミヤ・牧口さん！」

16人目はレ・ミヤ・牧口（「ゾイドジエネシス」）。

よつ)。こちらは日本人の父親とオランダ人の母親を持つハーフ。

レ・ミヤ
「はーい」

小夜

「（呑氣で可愛いわ）次！倉木光さん」

17人目は、赤毛が燃えるような情熱系少女・倉木光（「魔法騎士レイアース」）。

光
「はい！」

小夜

「（この子もしつかりしてていいわ）山下ルキアさん！」

18人目山下ルキア（「ブリー・チ」
より）は、ミステリアスな雰囲気が漂う不思議少女。

ルキア

「はい。どうも・・・」

小夜

「（惚けててどうするの・・・？）次は、元谷侑子さん！」

19人目は、クラスの中でも一段と大人っぽい元谷侑子（「ホリック」
より）だ。

侑子

「・・・はい」

小夜

「（うおつ！大人っぽい・・・）女子は次で最後ね・・・斎藤はや
てさん！」

最後に点呼されたのは、生まれつき足が不自由で車椅子生活を送つ
ている斎藤はやて（「魔法少女リリカルなのはA.S.」より）。

はせて

「はい。車椅子だけど、普通と同じように生活したいんです」

小夜

「（強い心を持つていのね）・・・以上で、出席確認を終わります。みんな、これからよろしくねー。」

生徒全員

『ナニカ』

生徒達は小夜を囮んで大騒ぎ！早くもクラスが調和しているようだ。

しかし、その幸福感溢れる教室の片隅でポツンとたたずむ教師歴3年の男性教師が、約一人。

コジロウ

「あのー……せっぱり僕の事、忘れ去られてるんじや……（泣）

L

第5話「小夜の家・母との約束」（前書き）

無事、教師生活一日目を終えた小夜先生。

今回は小夜先生の自宅に潜入！小夜先生の家族や、少女時代のヒーローを描きたいと思います。

それでは、じっくり！

第5話「小夜の家・畠との約束」

緊迫した教師生活一日目を終えた小夜は、学校から程近い自宅に帰つて来た。

小夜

「ふう……」

玄関を潜り、リビングの灯を付ける。

小夜の家は、昭和30年代の民家の形をそのまま止めさせて、懐しい雰囲気がプンプンしている。

リビングにはちや、ふな。キッチンには釜。

寝室にはベッドはなく、布団が部屋の片隅に積まれている。
縁側には、ポンプ式の井戸が一台。側には四季折々の花々が咲き誇る。

今の季節は春。タンポポの花が黄色いジュウタンを作り出している。
リビングの隅っこに、古い家族写真が飾られている仏壇がある。小夜は仏壇に向かって語り掛けた。

小夜

「ただいま。お父さん、お母さん、おばあちゃん」

小夜は少し間を置いて話しつづけた。

小夜

「ねえ、私、今日から教師なんだよ。学校の先生になつたんだよ。お母さん、私が教師になるのを楽しみにしてたつけ・・・」

ピーンポーン！

小夜がしみじみと想い出に更けていると、玄関のチャイムがなつた。

小夜

「お兄ちゃんだ！」

ガラガラ・・・

入つて来たのは、小夜の5歳年上の兄・小田ダイゴ（「ポケットモンスターAG」

より）だつた。

ダイゴ

「ただいま。おっ、小夜。帰つてたのか

小夜

「うん」

ダイゴも小夜の隣に膝ま着いて仏壇を見上げる。

ダイゴ

「母さんが」「くなつてから、もつ半年も経つんだな・・・」

小夜

「うん・・・」

ダイゴ

「母さん、お前が教壇に立つ姿を見るの、楽しみにしてたんだよな。でも、心臓病の治療が間に合わず、去年の秋、天使になつた・・・」

小夜

「お母さん、私が教壇に立つ姿、天国から見てくれたのかな」

ダイゴ

「きっと、見てくれたと思うよ」

小夜

「そうだよね。見てくれたよね・・・」

小夜の兄・ダイゴは、家族代々続いて来た自宅の床屋の5代目。時々、小夜の髪の毛も散髪してあげる。

ダイゴ

「夕食、用意しておぐぞ」

小夜

「うん」

ダイゴは夕食の支度の為、キッチンに向かつた。

小夜はまた、一人になつた。

小夜

「お母さん、あの日の約束、守つたよ」

回想・・・

幼き日の小夜

「うーん、この問題分かんなーい！・・・もひ、やめた！」

ペシッ！・！

幼き日の小夜

「ひ・・・。うわ～ん！お母さんが、小夜のほっぷつた～！・！」

小夜の母

「こんな問題、すぐに諦めてはいけません！」

幼き日の小夜

「・・・」

問題が解けなくて困る幼き日の小夜に、母は厳しい顔で小夜のほっぷつた後、優しく語りかける。

小夜の母

「あ、分かるまでお母さんと一緒に勉強しましょ」

幼き日の小夜

「グスッ。うん・・・」

実は、小夜の母は教師であり、しかも小夜が小学生の時には担任も

した事もある。

幼き日の小夜

「あー解けたーお母さん、解けたよー！」

小夜の母

「頑張ったわね。やれば出来るじゃない」

幼き日の小夜

「えへへ・・・。（思）古手な勉強も、お母さんと一緒になら、楽し
い！」

小夜の母

「そう・・・」

幼き日の小夜

「ねえ、お母さん」

小夜の母

「何？」

幼き日の小夜

「私、決めたの。私、大きくなつたら、お母さんみたいな優しいけ
ど、ちょっと怖い学校の先生になるー！」

小夜の母

「まあ・・・でも、学校の先生になるには、たくさん難しい事を
勉強しなければいけないのよ。それでもいいの？」

幼き日の小夜

「うーん、それはちよつと……だけビ、頑張るー。」

小夜の母

「そつ・・・。小夜なら、きっとなれるわ」

幼き日の小夜

「うんっ！」

小夜の母

「じゃあ、指切りしましょ。小夜が将来、優しいけどちょっと怖い、学校の先生になれるよう」

幼き日の小夜

「うん！お母さんと、小夜の約束だよ」

幼き日の小夜&小夜の母

「指切りげんまん、嘘ついたら・・・、小夜はお母さんにまっぺをぶたれ～る！指切った！・・・アハハハハ・・・」

小夜

「お母さんからビンタされる事は、もつないけどね・・・」

小夜は胸に手を当てて、誓つた。

小夜

「お母さん、見ててね。私、頑張るからー！」

小夜の瞳には、希望の光が満ちていた。

第5話「小夜の家・幽との約束」（後書き）

小夜先生、お母さんとの約束を守れて良かつたですね。

次回は3・Eからカップル誕生の予感…？役員会議に注目ですよ…。

どうぞお楽しみに！

第6話「カッフル誕生の予感！？」（前書き）

お母さんとの約束を果たし、決意を新たにする小夜先生。

今回は3・Eの学級委員長、副委員長を決める「HRでカッフル誕生の予感が・・・！？」

それでは、どうぞ！

第6話「カツブル誕生の予感！？」

翌朝。

小夜は前日よりは余裕をもつて学校に到着した。

小夜

「おはようございます。」

小夜が職員室に飛び込むと、3-E副担任のゴジロウがいきなり、小夜の手を取って言った。

ゴジロウ

「おはようございます、小田先生。実はちょっととい話がありまして・・・」

小夜

「はい？」

ゴジロウ

「なんど、当校の野球部、今朝の栄華新報（海里堂町の新聞）のスポーツ面に『聖大徳寺学園、今年の夏の甲子園へ21世紀枠で出場する可能性が高い』って紹介されまして・・・」

小夜

「そ、そりですか。良かったですね・・・。でもいきなり手を取つて言って来るのは止めてくれませんか？」

「ゴジロウ

「あ・・・す、すいません!つい、興奮してしまったもんで・・・

「

小夜

「興奮したのならいですよ。甲子園、出られるといいですね」

「ゴジロウ

「そう!聖大徳寺学園は最後の全国大会出場から10年間、一度も都予選を勝ち抜いた事がないのです!今年こやは全国大会出場!そして、優勝!あの深紅の優勝旗を本校に持ち帰る事が、大きな目標なのです!」

小夜

「(東野先生、高校野球の事になると熱くなるのね・・・)あ、それより、今日は学級委員長と副委員長を決めるんですね」

「ゴジロウ

「あ、はい・・・。そうでしたね」

小夜

「では行きましょう。みんな待ってますよ」

小夜とゴジロウは職員室を出で、教室に向かった。

教室では生徒達が、学級委員長候補について討論を重ねていた。

3・E教室。

今日も生徒達は元気ハツラツである。

シン

「なあ、このクラスの中で、一番学級委員長に相応しい奴は誰だと
思つか？」

カケル

「俺は阿久津だと思つ。」

小狼

「あ、俺も・・・冬樹が相応しいと思つ」

アスカ

「私も！阿久津君にやつて欲しいなあ」

侑子

「私も・・・阿久津君がいいと思つわ」

冬樹

「・・・でも、僕には出来っこないよ・・・。（苦笑）やつぱり、
2年の時に学級委員長やつてたイザーク君の方が・・・」

なのは

「あの、私は・・・」

ガラツ！

その時、教室のドアが開いて、小夜とコジロウが入つて來た。

ネギ

「起立！ 気を付け！ 礼！」

生徒全員

「おはよーい♪ やこまーす！」

この日の日直・ネギの号令に併せて、爽やかな挨拶が教室に響き渡った。

ネギ

「着席！」

小夜

「おはよーい♪ やこまーす、皆わざ。今日も一日、仲良く、楽しく過ごしましょー！」

この日の1時限目は、LHR（ロング・ホーム・ルームの略）。先程の小夜の台詞通り、学級委員長、副委員長を決める事になっていた。

小夜

「誰か学級委員長、及び副委員長を引き受けてくれる人はいるかしら？」

生徒全員

「・・・」

皆、

「自分はやりたくない」

とアピールするかのよう、口をしつかり閉じて黙り込んでいる。

小夜

「みんなやりたくないのかしら・・・。じゃあ、アンケートで決めましょ。恨みっこなしですよ。筆記用具を用意して」

ゴジロウが一人一人の机の上に、小さな白紙を配つていぐ。

小夜

「一番票が多い人を委員長に、次に多い人を副委員長にしたいと思します。では、始めて下さい。」

小夜が手を叩いて合図をしたと同時に、生徒達のシャーペンを動かす音がシャーシャーと、教室中に響く。

数分後、その結果は出た。

小夜はその結果を、黒板に書き写していく。

結果は、あれ程

「やりたくない」

と断固否定していた阿久津冬樹が21票。次いで、少し冬樹の事を気にかけていた牧野なのはが9票だった。

冬樹

「あ、あ・・・」

小夜

「じゃあ、今年の学級委員長は阿久津君、副委員長は牧野さんで、よろしいですね？賛成の方は拍手をお願いします」

この案は拍手喝采、全会一致で可決となつた。

蓮

「頑張れよ、阿久津！」

ちせ

「頑張つてね、阿久津君！」

あれ程やりたくない、学級委員長に選ばれてしまった冬樹。

冬樹は酷く落ち込んでしまつた。

冬樹

「・・・」

なのは

「阿久津君・・・」

今にも泣き出しそうな冬樹を、副委員長に選ばれたなのはは心配そうに見つめていた。

放課後。

学級委員長に選ばれて、そのショックで冬樹は足取りが重くなつていた。

冬樹

「・・・。なんで・・・。なんで、僕が・・・」

酷く落ち込む冬樹の背後から、彼を呼ぶ声がした。

なのは

「阿久津君ー！」

声をかけたのは、先程副委員長に選ばれた、子供っぽい顔つきが人気のなのはだった。

冬樹

「ああ・・・、牧野さん・・・

なのは

「阿久津君、一緒に帰ろ！」

冬樹

「あ、うん・・・。別にいいけど・・・」

冬樹となのはは、並んで歩いた。

なのは

「ねえ、阿久津君。そこまで委員長になるのが嫌だったの？」

冬樹

「だって僕、責任を取る仕事は苦手だし、僕のせいでクラスが目茶苦茶になっちゃつたら・・・」

なのは

「それで、委員長になるのが嫌だつたんだね。でも、そこまで思い込む必要はないと思うよ」

冬樹

「そ、そうだね」

なのは

「それに、私も一緒にだから、怖くないでしょ？これから一年間、私と一緒に頑張ろう！ね、阿久津君！」

冬樹

「う、うん・・・」

やがて二人は、大通りの交差点にさしかかった。

冬樹

「牧野さん、本当にありがとうございました。牧野さんのおかげで、だいぶ気持ちが和らぎました」

なのは

「良かった。少しでも力になれて良かったよ。あ、阿久津君の家、反対の方角だよね」

冬樹

「うん・・・」

なのは

「じゃあ、ここでお別れだね。また明日ー・さよなら」

冬樹

「さよなら」

なのはと別れた冬樹の心は、暖かかった。

冬樹

「（牧野さん・・・。いい人だな・・・。僕、これから牧野さんにいろいろ助けられそうだ・・・。」

家路を辿る冬樹の足取りは、いつの間にか軽く、スピード感を取り戻していた。

第6話「カツプル誕生の予感！？」（後書き）

冬樹君、心の拠り所が見つかって良かつたですね。

冬樹君となのはちゃんの恋の行方が、気になりますね！

次回は、クラスの中で最も重大な問題を抱えている、ある少女のお話です。

どうぞお楽しみに！

第7話「第7話だけにダブル『ナナ』登場!」（前書き）

今日はちょっと、文章が長くなつてしましました・・・。

今回は、心臓病で苦しむ姉を持つ、小夜先生の教え子の一人・サクラちゃんとその親友・奈々ちゃんにスポットを当てます。

タイトルの「ダブル『ナナ』」とはどんな意味を持つのか?もしかすると、あの人登場!?

それでは、どうぞ!

第7話「第7話だけにダブル『ナナ』登場!」

小夜が3・Eの担任になつてから一週間。

私立高校らしく、授業の進度はとてつもなく早く、小夜が担当する化学の授業も、もう教科書の7分の1を終わらせていた。

とは言つものの、聖大徳寺学園で使う教科書は、量が半端ではない。なにせ、どの教科の教科書もページ数が200ページ以上。一番多い数学の教科書はなんと、400ページ近くあるのだ！

その莫大なページ数を誇る教科書が2～3冊。生徒達は移動教室の際、教科書を持ち歩くのが大変だ。

そのデカい教科書を使った、小夜が担当する化学の授業での事。

小夜

「じゃあ、この問題、解ける人〜？」

ちよ

「はい！」

キラ
「はい」

教室中に、生徒達の元気な返事が響く。

しかし、その中で、悲しげに窓辺を眺める少女が、約一人。

小夜

「・・・?また中島さんだわ。どうしたのかしら・・・」

悲しげに窓辺を眺める少女・・・。彼女の名は中島サクラである。

サクラ

「・・・」

小夜

「・・・。(後で話を聞いてみよう)」

授業終了後。

俯きながら重い教科書を抱えて教室へ向かうサクラを、小夜が呼び止めた。

小夜

「中島さん!」

サクラ

「あ、小夜先生・・・」

小夜

「何か困っているみたいね。どうかしたの?」

サクラ

「実は・・・。う・・・。うわあ・・・(泣)」

小夜
「中島さん・・・」

泣きじゃぐるサクラを田の前に、小夜は困り果ててしまつ。

「サクラのお姉さんは、心臓病で苦しんでいるんですねー。」

小夜
「えつー!?

小夜とサクラを呼んだのは、サクラの親友・町田奈々だった。

小夜
「ま、町田さん・・・。その話、本当なのー?」

奈々
「詳しきは、病院で話します。放課後、一緒に来て下せー。」

サクラ

「是非、お願いします!」

小夜
「わかったわ

放課後。

小夜、サクラ、奈々はサクラの姉が入院していると言ひ病院にいた。

小夜

「この方が・・・、中島さんのお姉さん？」

集中治療室で不安そうな顔で横たわるのは、サクラの姉・中島美樹（「地獄先生ぬ～べ～」より）だった。

サクラ

「お姉ちゃん、気分はどう？」

スピーカーフォンを通して、姉・美樹に語りかけるサクラ。

美樹
「あ・・・。サクラ・・・。今日は、友達も、一緒、なのね・・・」

奈々

「大丈夫ですか？」

美樹

「ええ。なんとか・・・」

小夜

「あ、初めまして。私、中島さんの担任をしている小田小夜と申します」

美樹

「小田先生・・・ですね。いつも、サクラが、お世話に、なっています」

美樹はかなり衰弱しているらしく、会話は途切れ途切れになつてい

る。

しばらく美樹と会話した後、美樹の負担にならないように机の上に
退室する事になった。

小夜

「美樹さんを助ける方法は・・・？」

サクラ

「姉を助けるには・・・、心臓移植をしなきゃいけないんです」

小夜

「・・・！」

サクラ

「姉は生まれつき、心臓が弱くて、今までいろんな治療法で命の危
機を乗り越えて來たんです。でも、それももはや限界・・・。残さ
れた手段は、心臓移植しか、無くなつたんです」

奈々

「サクラと私は、サクラのお姉さんを助ける為に募金活動をして來
たけど、渡米移植には、後3000万円が必要なんです。なんとか、
美樹さんを助けられないかと・・・」

小夜

「そう・・・」

小夜、サクラ、奈々はひたすら、考え続けた。

奈々

「・・・そうだ！私にいい考えが思い付いた！」

小夜&サクラ

「・・・？」

奈々は小夜とサクラの手を引いて、駆け出した。

小夜

「どうしたの！？」

奈々

「小夜先生とサクラに、会わせたい人がいるの！」

数分後。

小夜、サクラ、奈々は駅前の小さな公園にいた。

小夜

「ここに連れて来てどうするつもり？」

奈々

「しつ！あそ！・・・」

小夜達の眼前には、黒いショートヘアに、ゴスロリファッショングでハジけながらエレキギターを引く若い女性がいた。

サクラ

「あの人は・・・？」

奈々

「富士見ナナ。私の中学時代の親友よ」

富士見ナナと言つ若い女性の歌声は、爽やかで伸びがいいが、その中に力強い魅力がある。

奈々

「ナナはね・・・、中学を卒業した後は歌手になる夢を諦めきれず、全日制の高校に進学するのを断念したの。それで、今は通信制の高校に通いながら、インディーズレベルに所属して・・・。主に、ストリートライブとかで活躍してるの。一枚だけだけビ、マニアルバムも出してるのよ」

小夜

「す、じ、い・・・。あなた達と同じ、高3なのに・・・」

小夜が感心していると、ちようじナナが一曲歌い終わつたといふだつた。

奈々

「ナナー！」

奈々はナナの元へ駆け出して行つた。小夜とサクラも、その後に続く。

ナナ

「はあ・・・。今日もお姫さんばゼロかあ・・・。ん？あ、ハチじやん。久々～」

奈々

「ナナ・・・。今日はお願いがあつて来たの」

ナナ

「ああ、一応聞くけど。その前に、後ろの二人は？」

奈々

「あ・・・。そうだ、紹介するのを忘れてた。」こちら、私の同級生のサクラと、今の担任の小夜先生」

サクラ

「中島サクラです！初めまして！」

小夜

「担任の小田小夜です。よろしく」

ナナ

「よろしく。で、そのお願いは？」

奈々

「あのね、ナナ・・・。サクラのお姉さん、重い心臓病で苦しんでるの。それで、助かる方法は、渡米移植しかないって・・・」

ナナ

「渡米移植・・・」

サクラ

「姉を助ける為には、あと3000万円が必要なんです！」

奈々

「大切な友達の家族の為に・・・。お願い、ナナ！チャリティーラ

「イブ、やつて……」

ナナ
「・・・」

ナナ
「・・・」

小夜
「私からも、お願ひ！実は私も、心臓病で母を亡くしているの……」

ナナ
「・・・それは、無理だ」

奈々
「え・・・？」

ナナ

「私はね、営利目的でライブやつてる訳じゃ ain't ないんだよ。しかし・・・」

サクラ&小夜

「・・・？」

ナナ

「チャリティー・ライブなら、やつたげてもいいよ

小夜&サクラ&奈々
「わあっ！」

小夜、サクラ、奈々は大喜び！

奈々

「良かつたね、サクラー！」

サクラ

「うんー！」

ナナ

「でもさ・・・私の事、知ってる人、少ないでしょ？…どうやって
チャリティーライブを開くつもり？」

悩む小夜と奈々。そこにサクラが・・・。

サクラ

「校内放送で、流す方法があります！」

奈々

「そつかー！サクラ、放送委員だったよね！」

サクラ

「うん。お昼休みにナナさんのCDを流して、全校生徒にナナさん
の事を知つてもらうの」

ナナ

「いい考えだね。サクラー！」

小夜

「さすが放送委員ー！そうすればいいのよ

ナナ

「私はレーベルと相談してライブの日取りを調整するから、PR活

動は、ハチ、サクラ、それに・・・小田先生、よろしく

小夜&サクラ&奈々

「はーい！！」

こうして、小夜、サクラ、奈々、そしてナナの4人を中心とした
「中島美樹さんの命を救う大作戦」
は、ここにスタートしたのである。

第7話「第7話だけにダブル『ナナ』登場!」（後書き）

サクラちゃんのお姉さん・美樹さんを救う為、チャリティーライブ作戦に乗り出した小夜先生、サクラちゃん、奈々ちゃん、そして、ナナさん。

チャリティーライブ、うまく行くといいですね。

次回はいよいよ、ナナさんの歌声が、聖大徳寺学園に響き渡ります！

どうぞお楽しみに！

第8話「響け！4人の想い！決死のPR！」（前書き）

サクラちゃんのお姉さん・美樹さんを救う為、プロジェクトを立ち上げた小夜先生、サクラちゃん、奈々ちゃん、ナナさん。

今回は、放送委員でもあるサクラちゃんが、同じ放送委員のちせちやんと協力して校内放送でのPRに乗り出します。

果たしてPR活動はうまく行くのでしょうか？

それでは、どうぞ！

第8話「響け！4人の想い！決死のPR！」

ピーンポーンパーンポーン！！

小夜、サクラ、奈々、ナナが
「中島美樹さんの命を救う大作戦」
を立ち上げた翌日のお昼休みの事。

サクラ

「皆さんこんにちば。お昼の校内放送の時間です！」

マイクに向かつて明るく語りかけるサクラ。側には同じ放送委員で、
今年の委員長に選ばれた光月ちせがサポートする。

サクラ

「今日は、皆さんに紹介したいアーティストがいます。その名は、
富士見ナナさん。17歳の高校3年生です」

この声明が流れた途端、3・E教室では生徒達がざわめき始めた。

知世

「まあ・・・。高校3年生ですの？」

イザーカ

「高3だつて！すげえと思わないか？」

ソーマ

「・・・（ウオーカマンに夢中）」

サクラの声明

『富士見ナナさんは、中学校卒業後、歌手になる夢を諦めきれず、全日制高校への進学を断念しました。現在は、通信制の高校に通いながら、インディーズレーベルに所属して、主にストリートライブなどで活躍しているそうです』

カケル

「インディーズレーベル所属だって…やっぱすげえ…」

霧彦

「…まあな」

メイル

「どこのレーベル所属なんだろうね」

サクラの声明

『そのナナさんのミニアルバム・
「果て無き夢求めて」
が、現在好評発売中です！今日は、その中から一曲、お送りしたい
と思います』

サクラのこの台詞と共に、側にいたちせがこの準備をする。

サクラ

「それではお送りしまじょ。富士見ナナ・『翼が欲しい』」

ちせがこの再生ボタンを押した。爽やかなギターサウンドが流れ

始めた。

「翼が欲しい」

の詩より・・・

『遥か遠い　君の元へ　今直ぐ会いに　行きたいよ　純白の翼を広
げ　君の元へ翔んで行くよ』

一護

「おっ！なんかかっこいいじゃん」

冬樹

「なんか同情されるね」

咲

「私、ファンになりそうかも！」

3・Eはもちろん、他のクラスでも絶賛の声が・・・。

「このお姉さん、声がかっこいいねえ」

「メジャー『デビュー』行けるんとちやう？」

「俺もファンになりそだよ」

しばらくすると、放送室の前には人だかりが出来ていた。

「あのアーティスト、誰なんですか！？」

「ひひ欲しいよおー」

「ライブにも行きたいー！」

放送室の中では・・・。

ちせ

「ねえサクラちゃん、外が大変な事になつてるよ・・・」

サクラ

「そつ・・・。じゃあそろそろ、例のお知らせ、お願ひ！」

ちせ

「わかつた」

サクラは、ちせとポジションをチェンジした。今度はちせが喋る番だ。

ちせ

「実は・・・、皆さんに力を貸して欲しい事があるのです」

ちせの声明が流れた直後、さつきまで放送室前で騒いでいた児童・生徒達は、一斉にスピーカーに耳を傾けた。

ちせ

「高等部3年E組の中島サクラさんのお姉さん・中島美樹さんのお姉さんをお、助けて欲しいのです」

児童・生徒達

「・・・？」

ちせ

「美樹さんは、生まれつき心臓が弱く、今までいろんな治療法で生き抜いて来ましたが、残された生きる手段は、アメリカでの心臓移植しか無くなつたのです。渡米、移植に必要な資金は、あと300万円・・・。その3000万円を集める為には、全校生徒の皆さん之力が必要なんです!」

サクラは、自分の願いを全校生徒に聞き入れてもらえるかどうか、心配だった。

ちせ

「実は、美樹さんには、大きな夢があるのです。それは・・・、『お医者さんになつて、今までの恩返しをみんなにしたい』との事だそうです。」

そう。美樹には、

「生まれてからずっとお世話になつぱなしだつたので、元気になつたら医者になつて恩返しをしたい」という夢があつた。

ちせ

「美樹さんの夢を終わらせない為にも、皆さん之力を貸して下さい!そこで、今日紹介した富士見ナナさんが、急遽チャリティーライブを開いてくれる事になりました」

児童・生徒達

「おお～！！！」

ちせ

「期日は……（あれ？ いつやるんだっけ？）

ちせが困っていると、サクラの携帯にメールが届いた。

サクラ

「ナナさんからだ！」

メールには、こう記述されていた。

「サクラ、頑張ってるか？ ライブの日取りが決まったから、メールするよ。期日は来週の土曜日、時間は午後6時から。場所はまだ決まってないんだ。そこ辺りはサクラ、学校とかと相談してさ、来週の水曜日までに決めといてよ。よろしく。富士見ナナ」

サクラ

「場所とか、どうするの？」

ちせ

「うーん……」

再びマイクの前に座つたちせは、即興でこう言つてしまつた。

ちせ

「期日は来週の土曜日、時間は午後6時から、場所は当校大講堂で行います。入場料はいくらでもよろしいですが、入場料がそのまま募金になります」

その声明を、少し怒りながら聞いていたのは、聖大徳寺学園理事長であり、大徳寺レイの母親でもあるマリュー・大徳寺（「機動戦士

ガンダムSEED」

よつ）である。

マリュー

「か、勝手に大講堂を使うなんて……」

マリューが怒りを爆発させよつとしたその時――

バンッ！

理事長室のドアが開き、女性が一人入つて来た。小夜だ！

小夜

「理事長先生、彼女達は本気なんです。どうか、大講堂使用の許可を下さい！」

マリュー

「えつ！？」

マリューが驚いていると、小夜の後ろから年配の男性が入つて來た。聖大徳寺学園高校校長・戸田ゲンドウ（「新世紀エヴァンゲリオン」より）である。

ゲンドウ

「児童・生徒達も興味深々のようだし、やってみてもいいんじゃないかな。放送室前で騒いでいたし」

マリュー

「や、そうね……」

マリューがチラツと理事長室の外を見つめると、いつの間にか聖大

徳寺学園の全職員が群れを成していった。

「「」の話は、全て小田先生から聞きました！」

「私達も、何とか力になりたいのです！」

「困っている人を、見捨てる訳にはいかないでしょー！」

小夜

「（皆さん・・・。ありがとうございます・・・）職員一同、心からお願ひします」

職員全員

「お願いしますーー！」

聖大徳寺学園の全職員が、頭を深々と下げて悲願した。

マリコー

「・・・わかつたわ。皆さんの熱意には負けました。大講堂の使用を許可しましょう」

小夜

「本当ですか！？・・・あ、ありがとうございますーー！」

職員全員

「ありがとうござりますーー！」

マリコー

「但し、条件があります」

小夜

」・・・？」

マリユ

「チャリティーライブをやるのなら・・・、必ず、美樹さんの命を助けて下さいね。私も協力しますから」

「はいっ！」

マニユ

「それでは詰わん、ようしうお願ひしますね」

ゲンドウ

早速売り込み開始だまあこ！

職員全員

こうして、美樹の渡米移植の実現へ、また一步前進したのである。

第8話「響け！4人の想い！決死のPR！」（後書き）

ナナさんのチャリティーライブに、理事長のマリュー先生も協力してくれた事になりました。これは心強いですね、小夜先生！

次回は、本編はちょっとお休み。「こちら聖大徳寺学園！」の設定集パートをお送りします。

どうぞお楽しみに！

第8・5話「『いぢら聖大徳寺学園』」設定集1（前書き）

今回は、本編はちょっとお休みして、「『いぢら聖大徳寺学園』」の設定集パート1をお送りします。

今回紹介するのは、この物語の舞台・聖大徳寺学園の校風、主人公・小田小夜先生のプロフィール、小夜先生を陰ながら支える東野コジロウ先生のプロフィール、聖大徳寺学園高校の制服の設定。以上4つです。

本編を読む際の参考にして下さい。

それでは、どうぞ！

第8・5話「『いちら聖大徳寺学園』」設定集1

「いちら聖大徳寺学園！」

設定集1

聖大徳寺学園「せいだいとくじがくえん」

この物語の舞台となる私立学校。

小学校・中学校・高等学校がある。（そのうち、高校が主な舞台）

創立は大正5年で、非常に長い歴史を持つ名門校。

知・心・体の三本柱校訓をモットーとしている。

国・公・私立大学への進学率も高い。

部活生の育成にも力を入れている。

聖大徳寺学園高校の部活

体育系・・・

男子・女子バスケットボール部

男子・女子バレー部

男子・女子卓球部

男子サッカー部

女子フットサル部

男子・女子硬式テニス部

男子・女子軟式テニス部

男子・女子バドミントン部

ゴルフ部

男子野球部

女子ソフトボール部

剣道部

柔道部

空手部

陸上部

水泳・スキー＆スケート部（夏と冬では種目が変わる）

創作ダンス部

新体操部
体操部
合氣道部
ラクロス部
文化系・・・
放送部
ボランティア部
コンピューター部
美術部
吹奏楽部
マーチングバンド部
軽音楽部
書道部
英会話部
中国語会話部

韓国語会話部

文芸部

科学部

演劇部

郷土音楽部

工学部

調理部

小田小夜「おだ・さや」(「BLOOD+」
より)

1981（昭和55）年8月6日（広島原爆の日）生まれ。
25歳。

星座は獅子座。

血液型はO型。

この物語の主人公。晴れてこの春、念願の教師となつた。

尊敬する人は、小学校教師だった亡き母親。

兄と二人暮らし。

3年E組担任。

化学担当。

東野ゴジロウ「らがしの・じじゅう」（「ポケットモンスター A
G」
より）

1979（昭和53）年5月30日生まれ。

27歳。

星座は双子座。

血液型はAB型。

教師歴3年の、小夜の先輩教師。

万年最下位の聖大徳寺高野球部の若きコーチとして活躍中。

小夜の事が、とてもなく気になるらしい。

クラスの生徒からは、
「役立たずのゴジロウ」
と呼ばれており、人気が低い。

3年E組副担任。

日本史担当。

聖大徳寺学園高校の制服「せいだいとくじがくえんじゅうがくのせいふく」

夏服

男子・・・

上半身は、白の半袖シャツに朱色のネクタイ。

下半身は、黒のズボン。

ベルトは黒か茶色が基準。

女子・・・

上半身は、半袖シャツに朱色のリボン。

下半身は、紺色の下地に深緑色のチェック入りのスカート。

ベルトはなし。

男女共通・・・

靴下は、アキレス及びルーズソックスは禁止。

靴は、派手な物でなければ良しとする。

冬服

男子・・・

上半身は、黒の校章付きのスーツ。

スーツの中は長袖シャツに朱色のネクタイ。

下半身及びベルトは、夏服同様。

女子・・・

上半身は、黒の校章付きのブレザー。

ブレザーの中は長袖シャツに朱色のリボン。

下半身は、夏服同様。

男女共通・・・

全て夏服同様。

第8・5話「『いじめ聖大徳寺学園』 設定集1」（後書き）

今回は設定集パート1をお送りした訳ですが、いかがでしたか？

次回はいよいよ、ナナさんによるチャリティーライブが開催！募金はいらっしゃるのでしょうか？

どうぞお楽しみに！

第9話「チャリティーライブ開催への道……は平塚じゃない」（前書き）

何とかチャリティーライブ開催へとつながった小夜先生達。

今回は、ライブ開催への道を描きます。

当田、開演直前まで田が離せません。

それで、ま、じめ……

第9話「チャリティーライブ開催への道……は平塙じやない！」

レイ

「ねえ、ママ……。そのトランクの中、何が入ってるの？」

マリュー

「え……。ああ、これね。これは……、せつばいに内緒

「」聖大徳寺学園理事長・マリュー・大徳寺の邸宅。何やら娘の大徳寺レイヒ、トランクの事について口論になつていていたのだ。

マリュー
「だから、あなたに見せてても何の得にもならないのよ？」

レイ

「それでもいいの……ねえ、見せてよ」

「」レイヒは手を滑らせて、トランクを地面に落としてしまった！

マリュー

「キャラアツ！……」

ドサツ！

レイ

「こ、これは・・・」

「マリューが落とした反動で開いてしまったトランクの中には、たくさん
さんの札束が入っていた。」

レイ

「・・・お金ー!?」

マリュー

「そ・・・、そりゃーせいぜい1000万円はあるわね

レイ

「1000万円・・・」

マリュー

「で? それがどうかしたの?」

レイ

「ママ・・・、もしかして、そのお金で海外旅行行くつもりでしょ
! ? 前もそんな事あったよね」

マリュー

「ち、違うわよー。」

レイ

「ふーん。本当かな?」

マリュー

「ほ・・・本当よー。」

レイ

「じゃあ、その証拠見せてよ。」

「マジュー」

「う、来週の土曜日にねー（あわわ・・・）のお金はチャリティーライブで払うのよ・・・」

チャリティーライブを3日後に控えた水曜日の事。

ナナ

「お願いします！是非私のミニアルバムを、チャリティーライブ会場で売つて下さい！」

ナナが所属するインディーズレベルの社長室では、ナナと社長の口論が繰り広げられていた。

社長

「そう言われてもねえ・・・」

小夜

「私からもお願いします。あなたの方の力も必要なんですよ！」

ナナ

「美樹さんの、医者になる夢を叶えてやりたいんです。お願いします！」

社長は少し黙り込んだが、やがて決断を出した。

社長

「ふむ・・・なら、協力しない訳にはいかないな・・・」

小夜&ナナ

「あ、ありがとうございます！」

小夜とナナは、深々と頭を下げてお礼した。

チャリティーライブ前日。

サクラは、母親のラクス・中島（「機動戦士ガンダムSEED」より）と共に、姉・美樹が入院している病院にいた。

サクラ

「ねえお姉ちゃん、この曲、聞いてみて」

サクラは美樹に、ナナのミニアルバムを見せた。

美樹

「富士見ナナ・・・聞いた事ない、名前、だけど・・・。売れてるの？」

サクラ

「とにかく、聞いてみて！すっごく元気な曲だから！」

サクラはそう言って、側にあつたCDプレーヤーにCDをセットして再生ボタンを押した。

かけたのは、校内放送で流され話題沸騰になつた

「翼が欲しい」

。

美樹

「いい曲だね・・・。何だか元気が出て来るよ」

サクラ

「良かった・・・。あのね、明日ナナさんが、学校でライブやつてくれるの。お姉ちゃんも、来られたら来てね・・・。無理だと思つけどね（笑）」

美樹

「来られるなら・・・、必ず行くね」

サクラ

「うん」

微笑みながら会話を交わすサクラと美樹の姿を、母親のラクスは涙をポロポロと流しながら見つめていた・・・。

チャリティーライブ明日 。

開演3時間前にも関わらず、会場となる大講堂には、もうたくさんのお客さんが集まっていた。

咲

「早く始まんないかなー。すつゞくワクワクするよ」

舞

「ちょっと咲、まだ開演3時間前だよ・・・。もつもしうつくり来た方が良かつたんじやない?」

ステラ

「まあまあ、いいじゃないの。咲なんか、今日のライブをするだけ楽しみにしてたんだよ」

シン

「富士見ナナつて、どんな女の子なんだうな・・・(笑)」

小狼

「この前の歌声、かつこみかつたじやないか。きっと容姿だつてかっこいいと思つよ」

シン

「それもやうだな。さすが我が親友・朴小狼!」

小狼

「アハハ・・・(照)」

その頃、舞台裏に用意された控え室では・・・。

奈々

「うわ~、まだ開演3時間前なのに、もうここにお客さん来てるよ~(汗)」

サクラ

「ナナさん、どうします?」

ナナ

「さうだね・・・よしつ！開演は、30分後だ！」

小夜

「えつ！？そんなに切り上げて、大丈夫なの？」

ナナ

「お客様さんを、長く待たせる訳にはいかないだろ？」

小夜

「それもさうだね・・・」

サクラ

「私、開演時間の変更をアナウンスして来ます！」

奈々

「お願いね、サクラ！」

サクラ

「うん！」

そう言ってサクラは、控え室を出て行った。

しばじくじく・・・。

ピーンポーンパーンポーン！

サクラの声明

『開演時間の変更をお知らせします』

キラ

「あれは・・・?」

ちせ

「サクラちゃんの声だ!」

レイ

「どうかしたのかしら・・・?トラブルでも?」

お密さん達がざわめく中、サクラの声明は続く。

サクラの声明

『お密様の収容がかなり早い為、開演時間を30分後の3時30分に切り上げさせて頂きます!』

お密さん全員

「つも――――!」

お密さん達は大喜び!

。 その様子を控え室から眺めていた小夜、奈々、ナナはとじつと・・・

ナナ

「意外と私の事、多くの人に知ってくれたみたいね・・・」

奈々

「良かつたねナナ・・・。もしかしたら、このチャリティーライブでメジャーデビューに大きく近付けるんじゃない!?」

ナナ

「おいおいハチ・・・。私はあんまし急いでメジャーデビューはしだくないんだけど・・・」

小夜

「町田さん、ナナさんは、ナナのスピードがあるので、彼女らしくやらせてあげて」

奈々

「・・・やうだよね。ナナは、ナナらしくやつてねばいいんだよね」

小夜

「そろそろ3時半だわ。ナナさん、ライブの準備を・・・」

ナナ

「ああ、はい」

そしていよいよ、ナナのチャリティーライブが始まろうとしていた。

前説として、まずは小夜が舞台に立つ。

小夜

「皆さん、今日は忙しい中、お越し下わこまして、本当にありがとうございます！」

お客さん達は、小夜の挨拶に拍手を送った。

小夜

「富士見ナナさんは、まだまだ無名ですが、これからどんどん売れていいく、素晴らしい大スターの卵だと思います。どうか、ナナさんの歌声を、しつかり聴いて行って下さい！」

お密やんは、それに応えるかのように、また拍手を送った。

小夜

「それでは只今より、富士見ナナさんによるチャリティーライブを開演致します！！」

小夜の前説が終わったと同時に、ステージが暗転する。

いよいよ、チャリティーライブの始まりだ！

第9話「チャリティーライブ開催への道……は平坦じゃない!」（後書き）

とひとひ、ナナさんによるチャリティーライブが開演しますね！

次回はそのチャリティーライブに、徹底密着します！

どうぞお楽しみに！

第10話「夢は終わらない—マコニー大胆に登場!—?」（前書き）

いよいよチャリティーライブが開演します！募金はいくら集まるのでしょうか！？

理事長のマリュー先生も、ある大胆な事をやつたりやっています。

それでは、どうぞ！

第10話「夢は終わらせない—マコト大胆に登場—？」

「ピィーッッ—！」

開演を告げるブザーが会場中に鳴り響く。

舞台のカーテンが開き、ナナが登場！同時に客席からは歓声が上がる。

小狼

「な？ やつぱり歌声のようにかつていい人だと思ったんだよ」

シン

「やつぱり小狼の予想通りだつたな」

咲

「きやーっ！ あの人がナナさん？ おっしゃれ～！ ～！」

舞

「そ、そうね、かつていいわよね」

ステラ

「かつていいのは歌声だけじゃなかつたんだ・・・」

舞台の上のナナは早速、一曲目を歌い始めた。一曲目はもちりん、先の校内放送で人気を博した

「翼が欲しい」

。

ステラ

「やつぱりナナさんはすごいなあ。歌声もかっこいいし、スタイルも抜群だもん」

舞

「そうだね。咲がファンになる訳も解ったよ」

咲

「ああ、ナナさん・・・。ナナさんは私の憧れの存在よ〜」

そんな咲の憧れの的・ナナは次々と、テンポよく曲を披露していく。それにつられるように、会場の熱気も最高潮に向かって加熱し続ける。

ナナ

「（なんて気持ちいいんだ。私、今までストリートライブしか経験してなかつたから、こんなに大勢の人前で歌う楽しさは全く知らなかつたよ・・・）」

ライブもクライマックスに近付いて来た頃、ナナはある話を切り出した。

ナナ

「実は・・・。このライブは、あるきっかけがあつて開く事になつたのよね」

ナナの発言に、会場が少し騒がしくなつた。

レイ

「え？きつかけってもしかして・・・」

ちせ

「もしかして・・・。ああ、あれだよ！」

ナナ

「我が親友・町田奈々、その親友・中島サクラ、そして・・・。その2人の担任・小田小夜先生、ちょっと舞台に上がって来てくれる？」

サクラ

「えっ！？いきなり舞台に呼び出されたけど、どうする？」

奈々

「来て欲しいって言うから、上がるつよ」

小夜

「そうね。何か大事な話があるのかもしれない。取りあえず、行きましょう」

サクラ

「はい」

ナナに呼び出された小夜、サクラ、奈々は舞台に出て來た。

ナナ
「実はこのチャリティーライブ、我が親友・ハチこと町田奈々の高校での親友・中島サクラの姉さん、中島美樹さんのアメリカでの心臓移植に必要な費用を集める為に開いてるんだ。美樹さんの夢は、

医者になつて今までの恩返しをする事。そんな美樹さんの夢を、終わらせる訳にはいかないんだよ！」

ナナの熱い叫びに応えるかのように、サクラも強く訴えた。

サクラ

「姉を助ける為には、あと3000万円が必要なんですね！」
力を貸して下さい！！」

サクラの訴えに、会場は・・・、沸いた。

シノ

お前の方になるセー！！

ハルヒ

フレー！フレー！美・樹・さん！」

R
D
•

「美樹さん、ファイター・・・ソーマ、お前からも何か言ってやれ

ソーマ

「・・・（ウォークマンに夢中だったが・・・）あ、ああ。美樹さん・・・。頑張れ！」

R
·
D
·

「ソーマ……。ウォーカーのイヤホンを外した姿、初めて見た

ソーマ

「俺だって、こつも音楽聞いてる號じやあないんだよ。当たり前じやないか」

R・D・

「でもこの曲なんか一田中ワーグマン聴こないじやないか

ソーマ

「（ギクッ……）」「

それはさておれ……。

ナナ

「あと、大講堂の出口にて私の『ヒロアルバム』果て無き夢求めて』を販売している。私の曲が気に入ってくれたら、是非購入してくれ。もちろん、売上金は募金に回させて戴く」

サクラ

「ナナさん……。ありがとうございますー。」

と、ナナが次の曲を歌おうとしたその時！

マコニー

「すみません…ちょっとですかー？」

理事長のマコニーがあのトランクを手に、舞台上に上がつて來た。

小夜

「り、理事長先生！そのトランクは・・・」

マリュー

「このトランクの中の1000万円は、私のへそくりの一部です！」

レイ

「ああ、ママつたら・・・」

マリュー

「私はこの1000万円を、美樹さんの渡米及び移植手術の費用として寄付致します！」

レイ

「ママ・・・。その為に1000万円を？」

小夜

「理事長先生・・・、本当にいいんですか！？」

マリュー

「ええ。家の娘つたら、『このお金で海外旅行に使う気が…』って言つてましたから。そうでない証拠を見せよつと思つて…・・・

レイ

「ママ・・・。そうだったんだ。美樹さんの為に・・・」

マリュー

「是非、よろしくお願ひします」

ナナ

「わかりました。喜んで使わせてもらいます。サクラ、良かったな。
・・田標金額はあと、2000万円だ」

サクラ

「本当にですか！？・・・理事長先生、ありがとうございます！！」

マリュー

「頑張つてね、中島さん」

サクラ

「はい！」

ナナ

「さて、田標金額が2000万円になつたところで、いよいよラスト一曲だ。この曲は、私の曲にサクラが詩を付けた共作だ。みんな、盛り上がりがつけて行こうぜ！」

お密さん全員

「おーーーーーーーー！」

こうして、会場が一つに調和したチャリティーライブは、大成功の内に幕を閉じた。

サクラ

「お姉ちゃん、来なかつたね・・・」

小夜

「仕方ないわよ、心臓病だもの。来られないのも無理はないわ」

サクラ

「そうですね・・・」

ナナ

「サクラー！」

奈々

「いい知らせがあるのー。」

小夜&サクラ

「えつー!？」

ナナ

「出口で販売した私のCDアルバム、全部売れたんだよー。」

奈々

「しかも募金額が目標の2000万円を超えたのー。」

ナナ

「近所の方々も協力してくれたから、意外と早く集まつたみたいね。」

・

サクラ

「わあ・・・。あ、ありがとうございましたー。」

小夜

「早くお母さんに報告しましょー。」

サクラ

「はいー。」

サクラは早速、携帯で母に連絡した。

奈々

「それにしても、意外と簡単に集まつたものね・・・」

小夜

「でもこれからが大変よ・・・。渡米は命懸けになる事だし、ドナー（臓器提供者）が見つからないと手術が出来ない。美樹さんにはそれを考慮すると、もう時間がないのよ」

奈々

「そうなんですか・・・」

小夜はただひたすら、美樹の渡米移植が成功するのを祈っていた。

第10話「夢は終わらせない－マコト大胆に登場－？」（後書き）

チャリティーライブは大成功！－サクラちゃん、良かつたですね。

次回はいよいよ、美樹さんが心臓移植手術の為に渡米します！しかし、サクラちゃんはある理由で日本に残る事に・・・。

身寄りの無くなつたサクラちゃんはどうして過ごす事になるのでしょうか！？それは次回までの秘密。

どうぞお楽しみに！

第1-1話「美樹、旅立つ！サクラ、残る！？」（前書き）

見事、募金が集まり渡米が決まった美樹さん！

しかし、サクラちゃんはある理由で日本に残る事になります。

そんなサクラちゃんが帰る家は、なんと！ あの人実家なんです・。
・。

果たして誰の実家なんでしょうか？

それでは、どうぞ！

第1-1話「美樹、旅立つ！サクラ、残る！？」

募金額が目標の3000万円に達し、美樹はいよいよ、心臓移植の為に渡米する事になった。

渡米前田 。

ラクス

「サクラ・・・。あなたは日本に残りなさい」

サクラ

「えつ！？・・・どうして・・・？」

ラクス

「サクラ、あなたは、今は自分のやるべきものをやればいいのです。将来栄養士になる為に勉強してるとしよう！」

サクラ

「でも、お姉ちゃんが・・・」

ラクス

「美樹の事は心配しないで。一生懸命に募金してくれた事は分かってるから」

サクラ

「うん・・・。あのね、このCD、持つて行って！お姉ちゃんの手術の時にかけて欲しいの」

サクラが手渡した物は、あの校内放送で話題を呼んだナナの曲が入ったCDアルバム『果て無き夢求めて』だった。

ラクス

「ありがとう、サクラ。美樹も喜ぶわ」

サクラ

「…」「さ

そして。

小夜

「といといひちひ、お姉さん…」

サクラ

「うん…。でも、パパもママもお姉ちゃんも行っちゃうと、私一人になっちゃう…。どうしようかな」

ラクス

「すみません!」

小夜

「これは、中島さんのお母さん…」

小夜と日本に残るサクラの元へやつて来たのは、サクラの母・ラクスだった。

ラクス

「いつもサクラがお世話をなつておられます」

小夜

「いえいえ」

ラクス

「実は、小田先生にお願いがありまして……」

小夜

「何でしう？」

ラクス

「サクラを、そちらに預けても宜しいでしうか？」

小夜

「えつ！？」

ラクス

「家は祖父母も亡くなつていて、知り合いの家もみんな忙しくて……。
・。小田先生しか頼れる人がいないんです」

小夜

「そ、そこまで言われたら仕方ないですね……」

ラクス

「よろしくお願ひします」

サクラ

「小夜先生、お世話をになります」

小夜

「は、はあ・・・」

こうして、サクラは家族が帰国するまでの間、小夜の家に預けられる事になった。

しばらくして。

複雑な医療機器に囲まれて横たわる美樹が、飛行機に乗り込もうとしていた。

サクラ

「お姉ちゃん、気をつけてね」

美樹

「うん・・・。サクラも元気でね」

サクラは別れを惜しむかのように、美樹の手を強く握っていた。

キーン。

美樹を乗せた飛行機は、遙か遠いアメリカに向けて飛び立った。

もしかしたら、これが永遠の別れになるのかもしれない。

サクラは涙を浮かべながら、ぐんぐん離れて行く飛行機を見送った。

数時間後。

サクラは小夜に連れられて、ある場所へ向かった。

小夜

「さ、着いたわよ」

サクラ

「ここが小夜先生の実家？」

サクラが連れて来られた場所は、昭和30年代の雰囲気が漂う小夜の家だった。

サクラ

「すごい・・・。灯はランプだし、クーラーもない。おまけに庭にはポンプ式の井戸もある」

興味深そうに家中を眺めるサクラ。それを見て、小夜が質問する。

小夜

「中島さん、モダンな家具に興味あるの？」

サクラ

「はい。こういう家具は、暖かみがあつて大好きなんです」

小夜

「それは良かった・・・。今時の女の子はこんな部屋は興味ないのかなって心配してたからね」

サクラ

「いえ、気にしないで下さい。私、一度こんな家に住んでみたかつたんですよ」

小夜とサクラが会話を楽しんでいると、小夜の兄・ダイゴが仕事を終えて帰つて來た。

ダイゴ

「ただいま～。あれ? その子は?」

小夜

「ああ、私の教え子の・・・」

サクラ

「中島サクラです。お世話になりますー」

ダイゴ

「お世話になりますー! つー・・・。こきなつどうした、その子・・・。」

「

小夜

「中島さんのお姉さんが心臓移植の為、家族みんなアメリカに行つて・・・。それで、家族が帰国するまでの間、うちで預かる事になつたのよ」

ダイゴ

「さうか・・・。ようじく、サクラちゃん」

サクラ

「よろしくお願ひします!」

ダイゴ

「サクラちゃん、しつかりしてていい子だね」

小夜

「私の生徒だからね(照)」

ダイゴ

「小夜・・・。お前を褒めてる訳じゃあないんだぞ」

小夜

「そうでした・・・」

ダイゴ

「じゃ、夕食の準備して来るぞ」

小夜

「わかつた」

小夜とサクラは、再び2人に・・・。

小夜

「中島さん、偶然ねえ・・・」

サクラ

「何が？」

小夜

「私のお母さんの名前も、『サクラ』（サクラ大戦より）だったよ

サクラ

「えっ！？・・・小夜先生のママの名前が、私の名前と同じ・・・」

小夜

「私のお母さんもね、教師だったの。私の憧れの人でもあったのよ」

サクラ

「そうだったんですか・・・」

小夜とサクラは気が合つたせいか、一晩中いろんな事を語り明かした。

お互いの不安を、埋め合つかのよう・・・。

第1-1話「美樹、旅立つ！サクラ、残る…？」（後書き）

小夜先生の家に預けられる事になつたサクラちゃん。小夜先生やダメガんとの同棲生活、展開が樂しみです。

次回は3・Eに昼メロドラマ旋風が巻き起しin！？昼メロ嫌いなあ
る生徒が主役です！

どうぞお楽しみに！

第1-2話「暨メロドラマ旋風到来！-レ・リバの大波乱！？」（前編）

サクラちゃんは家族が帰国するまでの間、小夜先生の家で暮らす事になりました。

今回は、家事の休憩中の奥さんを虜にする暨メロドラマが苦手なる女子生徒にスポットを当てます。

それでは、どうぞ！

第1-2話「昼メロアリヤ旋風到来！レ・リヤの大波乱！？」

小夜は、じの頃変な夢をよく見る。

その夢には必ずと書いていい程、いつもゴジロウが登場する。

何か関連性があるのだらうか・・・？

じの日見た夢は、以下の通りだつた。

「じは、中世の時代に繁栄したある国。

じの国の姫君・小夜は、山賊に襲われて断崖絶壁の大ピンチ！！

小夜

「どうしよう・・・。もう逃げる場所がないわ・・・」

山賊の頭領

「あばよ、哀れな姫君。行け！姫君を崖から突き落とすのだつ！」

！」

小夜

「い、いやー！」

遅かつた。小夜が助けを求めた時にはもう、その体は谷底の上空にあつた。

小夜

「きやあああああああああああああああああつ！…！」

その時！！

巨大な飛龍が、 その大きな手で小夜の体を受け止めた！

小夜

「あ、 あなたは・・・」

小夜を救つたのは、 飛龍使いの「ゴジロウ」だつた。

ゴジロウ

「大丈夫ですか、 姫様・・・」

小夜

「本当にありがとうございます。 あなたは命の恩人です」

いい感じのお2人。 そんな2人が成り行きに任せで口づけを交わそうとしたその時。

ジャジャーン！…！

小夜

「ひやあつ！」

サクラ

「小夜先生、 起きて下さい！学校に遅れますよ！」

気が付いたら朝だった。サクラのフライパン・シンバルで起こされたのだ。

小夜

「ああ、もう朝ですか・・・」

サクラ

「ダイゴさんが、朝食用意してくれてますよ。うーん、いい匂い」

小夜

「あ、もう8時！急がなきや・・・」

小夜とサクラ、それにダイゴは疾風の如く朝食を済ませ、家を出た。

その日のお休みの事。

3・E教室では、何やら大騒ぎになつてゐる。

アスカ

「ここからの展開が面白いのよ・・・。どうなるかと思つ?..」

ルドルフ

「うーん・・・。小夜子が健一郎に脅されるのかな?」

知世

「そんな展開じゃ面白くないですか。多分、無理やりキスされるのかと思いますわ」

はやて

「無理やりベッドに連れ込まれるんとちやうへ。」

シンジ

「僕も同感！！」

実は今、3-Eでは昼メロドラマブームが到来中。ブームの火付け役は、毎日昼メロドラマをDVDに録画してはその感想をクラスのみんなに語っている大原アスカ。アスカの話を聞いているうち、3-Eには昼メロドラマブームが巻き起こったのだ。

アスカ

「みんな面白い予想が出たけど、・・・残念！大外れ！」

ソーマ

「じゃあ、どんな予想なんだよ！？」

アスカ

「実はね・・・。健一郎は、入水自殺を図るのよ！それで、小夜子も道連れにされそうで・・・」

全員

「ええーっ！・・・」

舞

「自殺しちゃうのー？」

ルナマリア

「怖ーい」

アスカ

「引き止める人もいなかつたので、小夜子と健一郎はそのまま川へダイブしたのよ・・・」

侑子

「で、その後どうなつたの?」

アスカ

「その続きは・・・」

全員

「その続きは!-?」

アスカ

「昨日の話は!-!」おしまい

全員

「ええーつー?」

ネギ

「ここで終わりだなんて、ますます続きが気になるよ~

アスカ

「そ、そうだよねえ。だつて今日録画予約してたやつ、あれ最終回だもん。あんな展開になるのも無理はないわ」

サスケ

「最終回!-?」

小狼

「うん。『小夜子と健一郎の運命やいかに』だな」

知世

「とにかく、皆様に提案がござりますの」

七

何？

アスカ

「実は明日の放課後、知世のお屋敷でこのエリザベスのセレナーデ」最終回の鑑賞会を開く事になつたの！」

全圖
卷之二十一

フェイト

「あの巨大スクリーンで最終回見られるの!? だったらすごいよ!」

知世

「もちろん、お父さまやお母さまの承諾も頂いておりますわ」

ル
ジ

「そうと決まれば、明田の午後5時に知世ちゃんのお屋敷に集合だ！」

全圖

昼メロ鑑賞会で盛り上がる中、ただ一人だけ、椅子に腰掛けもくも

くとお弁当を食べ進める少女がいた。

日本人の父親とオランダ人の母親を持つ、レ・ミィ・牧口である。

蓮

「牧口は、行かないだろ？」

レ・ミィ

「・・・うん」

実はレ・ミィは昼メロドラマが苦手。人が恋によって傷付けられる姿を見るのが怖いからだ。

レ・ミィ

「人が恋で傷付くなんて・・・。私、すごく悲しい。どうして恋で傷付かなきやいけないの？」

それを見て、彼女の親友・山下ルキアが声をかける。

ルキア

「そんなに昼メロ嫌い？」

レ・ミィ

「嫌いじゃなくて苦手なの」

ルキア

「もしかして、一人で見るのが怖いからなんじゃない？」

レ・ミィ

「・・・当たり！ルキちゃん、よくわかつたね

ルキア

「当たり前じゃない！だって私はミライちゃんの親友だよ？」

レ・ミライ

「うん。 そうだよね。 ルキちゃんは私を励ますつもりで言つてるんだよね。 ・・・ ありがとう」

ルキア

「いえいえ。 でも私と一緒になら、見ても怖くないでしょ？ 明日、一緒に行こうよ」

レ・ミライ

「・・・うん」

ひつひつして、昼メロが苦手なレ・ミライもルキアに心を動かされ、鑑賞会に行く事になった。

次の日は、土曜日で学校は休みだった。

この日の夕方4時頃から、昼メロドラマ

「愛のセレナーデ」

最終回鑑賞会の会場となる、大手貿易会社

「株式会社石原貿易」

社長令嬢・石原知世一家の邸宅には大勢のクラスメイトが集結していた。

小夜やゴジロウも、招待されて顔を出していろ。

ゴジロウ

「小田先生、実は僕もこのドラマ、毎日録画予約してたんですね。面白いですよね」

小夜

「え、ええ、まあ・・・。（それにしても最近、いつも夢に東野先生が出て来るのよね・・・。何故かしら）」

開演5分前、あの脣メロドラマが苦手なレ・ミィと、その親友のルキアが到着した。

ルキア

「ミィちゃんつたら、数分前まで迷つてたのよ。結局私が無理やり連れて来たような事になつちやつたけど（笑）」

レ・ミィ

「・・・（来なけりゃ良かつたかも・・・）」

時計の鐘が、午後5時を告げる。

アスカ

「あー、あー、只今マイクのテスト中・・・ではこれよつ、『恋のセレナーデ』最終回の鑑賞会を挙行致しまーす！！」

アスカのタイトル「ホールが大広間に響くと、レ・ミィ以外全員、拍手を送った。

「愛のセレナーデ」

最終回の上映が始まった。レ・ミィはルキアの腕を、しつかり握つてスクリーンに注目している。

物話はいよいよ大詰めに。

お互に死んだと思っていた小夜子と健一郎は、川で漁をしていた漁師に助けられ、一命を取り留めた。

健一郎

「小夜子・・・僕達、死ねなかつたね」

小夜子

「それはきっと、神様からのお計らいだと思うわ。『2人で手を取り合つて、歩んで行きなさい』って、そういうお計らいなんだと思うわ・・・」

健一郎

「小夜子」

小夜子

「健一郎さん・・・」

健一郎

「今まで・・・すまなかつた。そして・・・愛してゐるよ

小夜子

「・・・私もよ、健一郎さん」

この後2人は、優しく口づけを交わす。物話は「」で終わりを告げる。ハッピーエンドである。

鑑賞会終了直後、大広間は3・E全員（レ・ミイ以外）の拍手で埋め尽くされた。中には、涙ぐんでいる人もいたと言つ。

小夜

「確かに感動したかも・・・（泣）」

アスカが再び、スクリーンの前に立つ。

アスカ 「皆さん…今回の鑑賞会は、いかがでしたか？」

イザーク

「もう最高だな」

ユーノ

「確かに…最後は感動したよ」

ちよ

「よく分からなかつたけど、面白かつた！」

知世

「喜んで頂けて、光栄ですわ」

この後、アスカの口から重大発言が・・・。

アスカ

「それでは最後に、『愛のセレナーテ』の主題歌『ETERNAL LOVE～永遠の愛～』を全員で合唱して、今回はお開きにしたいと思います。皆さん、本日は本当にありがとうございました！」

サトシ

「え、つー? 歌うの? ……でも俺、人前で歌うの苦手だぜ……」

光
「歌詞もあまり覚えてないし……」

知世

「その点は」「心配なく。歌詞カードを、皆様の座席に準備させて頂きましたわ」

ハルヒ

「知世は用意がいいからな(汗)」

アスカ

「それではー、ミュージック・スタートオンー！」

レ・ミィ

「歌うんですけどかい……(泣)」

鑑賞会は無事終了したが、その後、レ・ミィはどうなったかと聞くと……。

ルキア

「今日、楽しかったねえ」

レ・ミィ

「・・・あんまり」

ルキア

「あれ? ミィちゃん、『全然楽しくなかつた』と嘆つと嘆つたナゾ、
今回は『あんまり』?」

レ・ミィ

「私・・・、昼メロは苦手だけど、最終回だけは勇気を出して見て
みよつかつて思つて」

レ・ミィは少し微笑みながら、ルキアの質問に答えた。

ルキア

「せつ・・・。ミィちゃん、少し成長したねえ」

レ・ミィ

「・・・うん」

レ・ミィとルキアは、お互いの友情を確かめ合ひながら、足並みを揃えて歩いて行つた。

次の週の火曜日のお昼休み。

アスカ

「昨日からまた、新しい冒メロドラマが始まったのよータイトルは、『すれ違つ旋律』！！」

アスラン

「おーおー・・・、またアスカの熱弁が始まったよ・・・」

レ・//イ

「海道君ちょっと呆れてる・・・。少し冒メロから遠ざかったの？」

アスラン

「冒メロが苦手になるお前の気持ちも少しあはわかる。少し同情してやるよ」

レ・//イ

「理由が違う気がつ・・・」

やれやれ・・・。レ・//イの冒メロに対する葛藤は、まだまだ続きそうだ・・・。

第1-2話「昼メロ♪アラマ旋風到来！レ・ミヤの大波乱！？」（後書き）

レ・ミヤちゃんは本当に、成長したのでしょうか？最後の方でアスラン君がちょっと同情していましたが、この2人に進展はあるのでしょうか？

次回は、本編はちょっとお休み。「こちら聖大徳寺学園！」設定集第2弾をお届けします。

どうぞお楽しみに！

今回は本編をちょっとお休みして、この作品の設定集第2弾をお送りします。

今回は理事長のマリュー先生、阿久津冬樹君、牧野なのはちゃん、中島サクラちゃん、そして小夜先生のお兄さん・ダイゴさんのプロフィールを大公開！

それでは、どうぞ！

第12・5話「『JULIA聖大徳寺学園』 設定集2」

「JULIA聖大徳寺学園」

設定集2

マリュー・大徳寺「まりゅー・だいとくじ」
(「機動戦士ガンダムSEED」
より)

1971（昭和45）年3月6日生まれ。

35歳。

魚座。

B型。

聖大徳寺学園の2代目理事長。

5年前、先代の理事長（マリューの父親）が急性肺炎で病死した為、わずか30歳で理事長に大抜擢されてしまう。

が、現在では5年のキャリアを誇る立派な理事長。聖大徳寺学園の全職員をよく引っ張っている学園のリーダー。

娘に3・E生徒の一人のレイがいる。

阿久津冬樹「あくつ・ふゆき」（「ケロロ軍曹」
よみ）

1988（昭和63）年8月30日生まれ。

乙女座。

A型。

聖大徳寺学園高等部3年E組13番。

少々落ち零れな少年。

学級投票で今年度の学級委員長に選ばれてしまい、絶望の淵に・・・。

そんな時に同じクラスで副委員長のなはと親しくなり、次第に恋心を抱くようになる。

牧野なのは「まきの・なのは」（「魔法少女リリカルなのは」
よみ）

1989（平成元）年1月8日生まれ。

山羊座。

A型。

冬樹と同じく、学級投票で今年度の副委員長に選ばれた。

学級委員長に選ばれてしまった冬樹の心の支えとなる。

熊の縫いぐるみが大好き。

中島サクラ「なかじま・さくら」（「ツバサ・クロニクル」
よつ）

1988（昭和63）年4月9日生まれ。

牡羊座。

B型。

聖大徳寺学園高等部3年E組23番。

放送委員の副委員長。

同じクラスで放送委員長のちせと共にコンビを組んで、主にお昼休みの校内放送で活躍している。

重い心臓病を患う姉がいて、彼女の渡米移植の為に募金活動に疾走する。

より)

1976(昭和50)年7月9日生まれ。

30歳。

蟹座。

O型。

小夜の兄で理容師。

実家の床屋

「マイ・フレンド・フォー・エヴァー」

の5代目店長(とは言つても従業員はダイゴー一人だけだが)。

料理が得意。

父親が亡くなつてからは、一家の大黒柱として活躍中。

今回の設定集はいかがでしたか？

この設定集を、本編を読む際の参考にして頂けたら幸いです。

次回は、3・E初の大きな行事「社会見学」で大事件発生！？冬樹君となのはちやんの恋の進展も大ありかも！？

どうぞお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6507a/>

こちら聖大徳寺学園！

2010年10月10日03時21分発行